

参考資料

震災津波伝承施設（仮称）

展示等基本設計〔抜粋〕

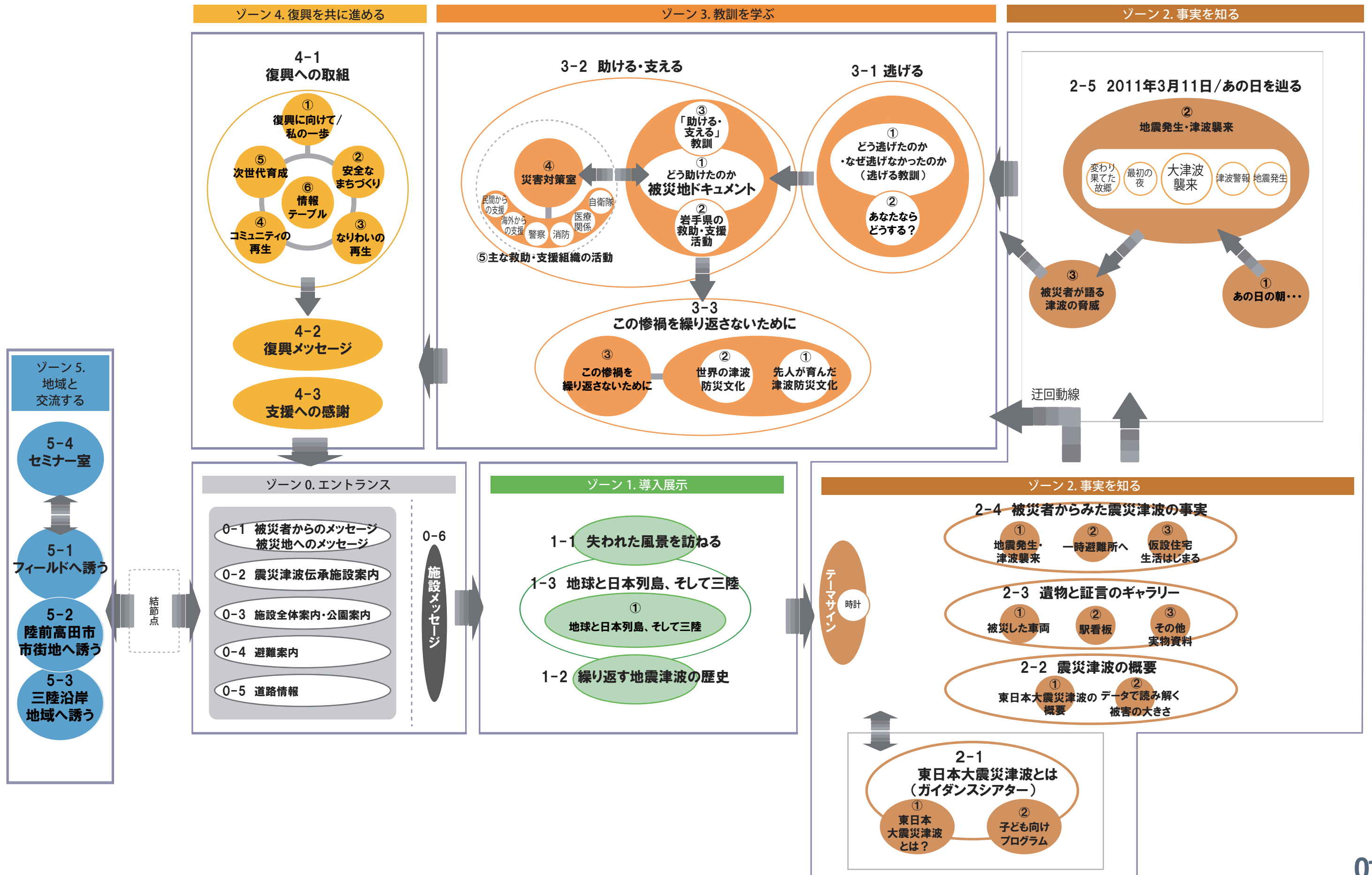
（平成 29 年 3 月 7 日 とりまとめ）

2017 年 7 月 28 日

平成29年度 第1回高田松原津波復興祈念公園

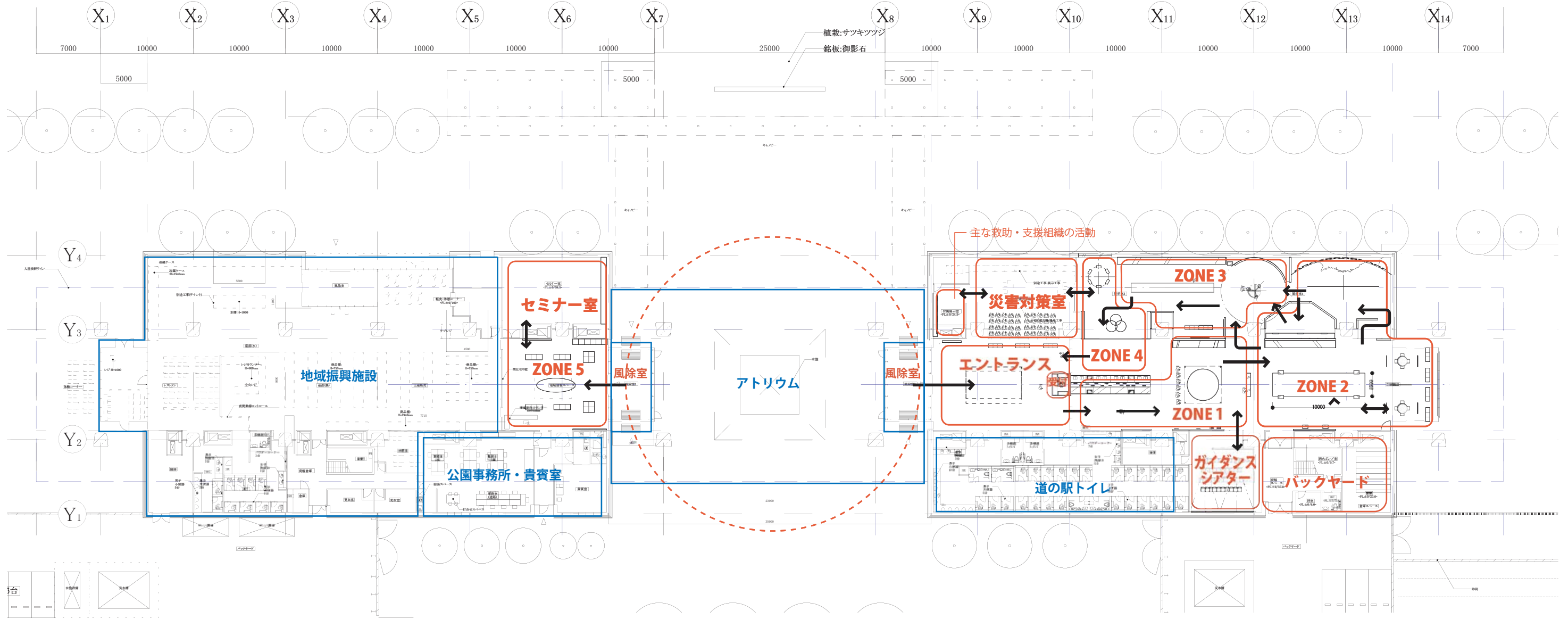
震災津波伝承施設検討委員会

展示ストーリー構成



◆展示主動線幅、展示観覧スペースの基本的考え方

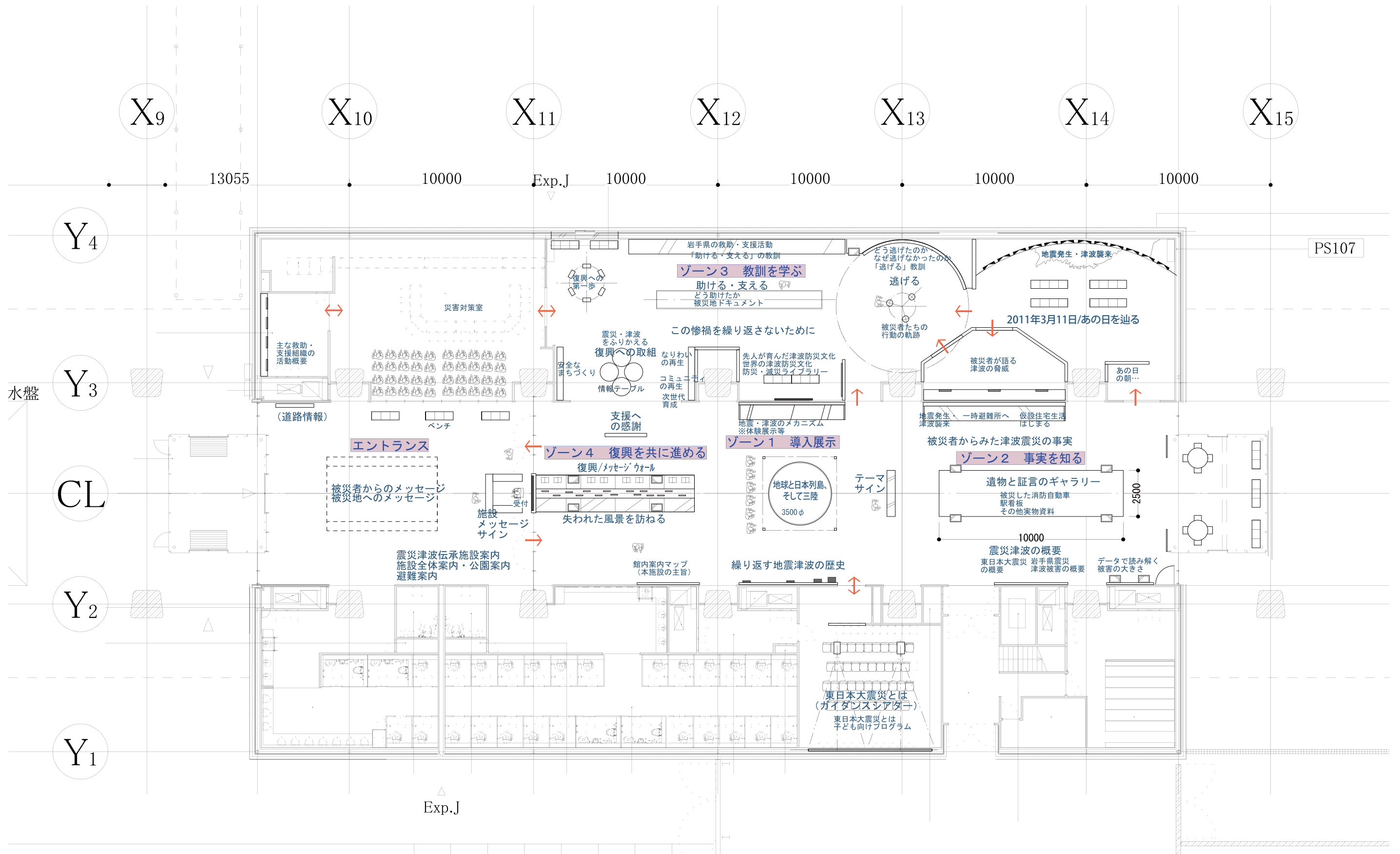
- ・主動線については、W2500mm以上を基本とする
(展示通過動線幅1500mm+立ち止まって展示を観覧する幅1000mm)
- ※車いすがすれ違う動線幅(1800mm以上)も念頭に計画する
- ・40名グループ(1クラス、団体バス1台相当)、一部20名を念頭に観覧動線の広さを設定する

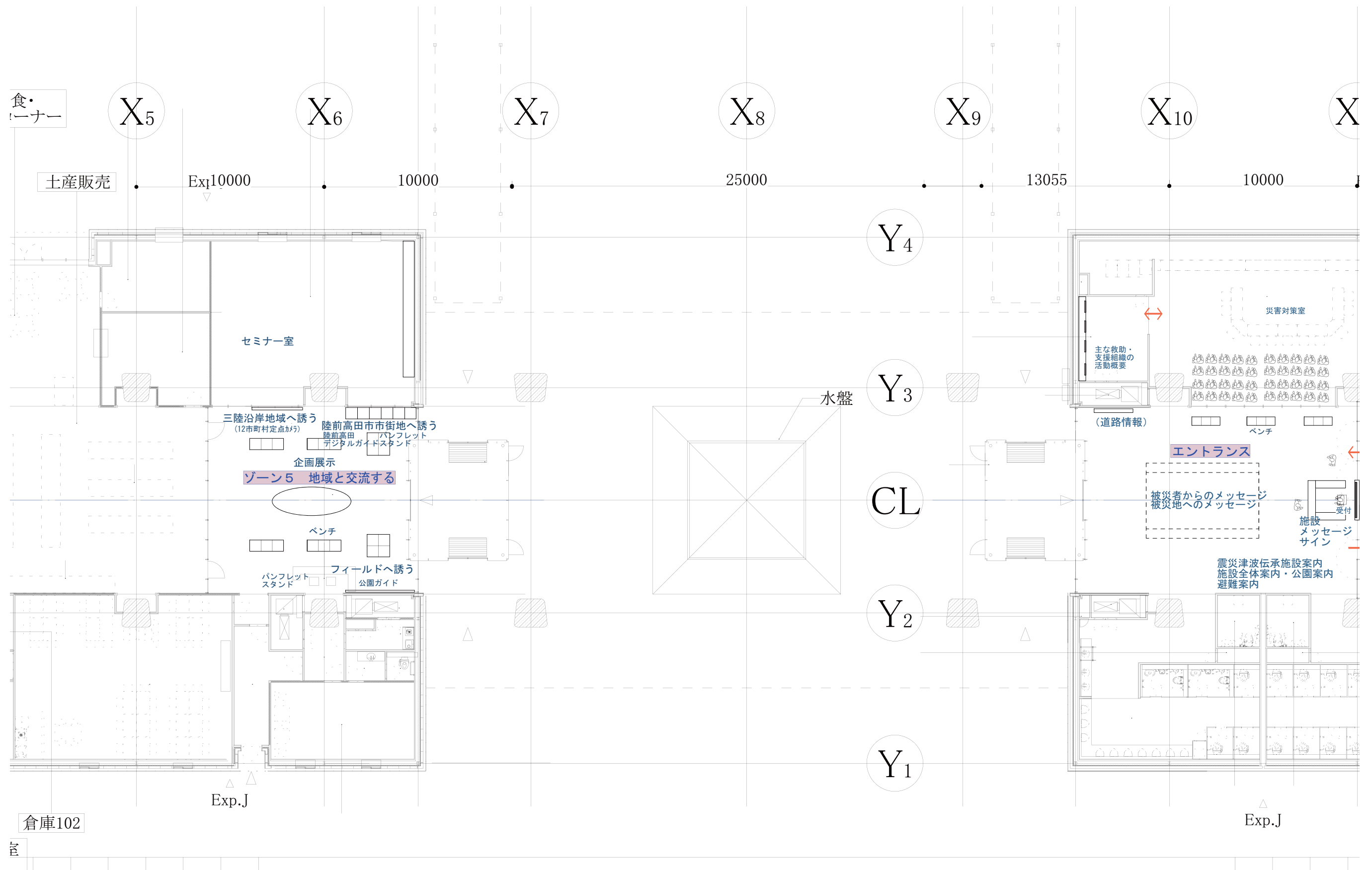


面積表

全体		各施設		諸室		ゾーン		備考
1階床面積	3580㎡	震災津波伝承施設	1475㎡	エントランス・風除室	195㎡			道の駅の休憩施設及び道路情報提供施設も兼ねる
				展示スペース	1145㎡	ゾーン1	135㎡	
						ゾーン2	415㎡	内) ガイダンスシアター100㎡
						ゾーン3	265㎡	内) 災害対策室105㎡
						ゾーン4	100㎡	ゾーン5にも一部展示
						ゾーン5	230㎡	公園の休憩機能を兼ねる 内) セミナー室100㎡
				バックヤード	135㎡			
				道の駅トイレ	245㎡			
				公園事務所・貴賓室	180㎡			伝承施設の事務室も兼ねる
				地域振興施設	1050㎡			
				アトリウム	630㎡			左右建築間の屋根で覆われた空間

※建築設計中であり、上記面積は変更の可能性がある。





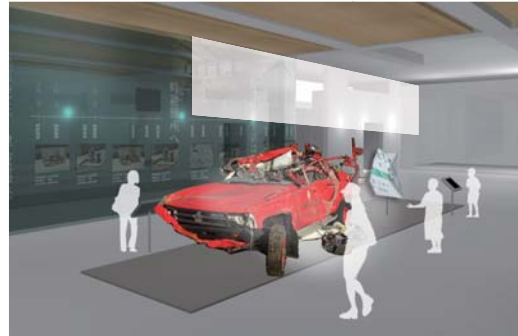
【ゾーン2 9】2011年3月11日/あの日を辿る -地震発生・津波襲来-

沿岸市町村を襲った東日本大震災津波の脅威を伝えることをねらう。地形模型と映像により、地震発生から津波襲来、各地の被害、翌朝までの状況の展示を想定。



【ゾーン2 8】遺物と証言のギャラリー

東日本大震災津波の実相について一人ひとりが思いを馳せ考える場とする。各地の震災前・震災後、両者の対比を通じて、この震災によって失われたものの大きさを感じてもらうことをねらう。被災した車両、駅名看板等本物の被災物を核とした展開を想定。



【ゾーン2 7】震災津波の概要

-東日本大震災津波の概要～データで読み解く被害の大きさ～
東日本大震災津波の基本的情報を分かりやすく伝える場とする。東日本大震災の概要、岩手県の震災津波の概要、被害の大きさを各種データを用いて解説し、いわて震災アーカイブのデータも検索できるようにする。



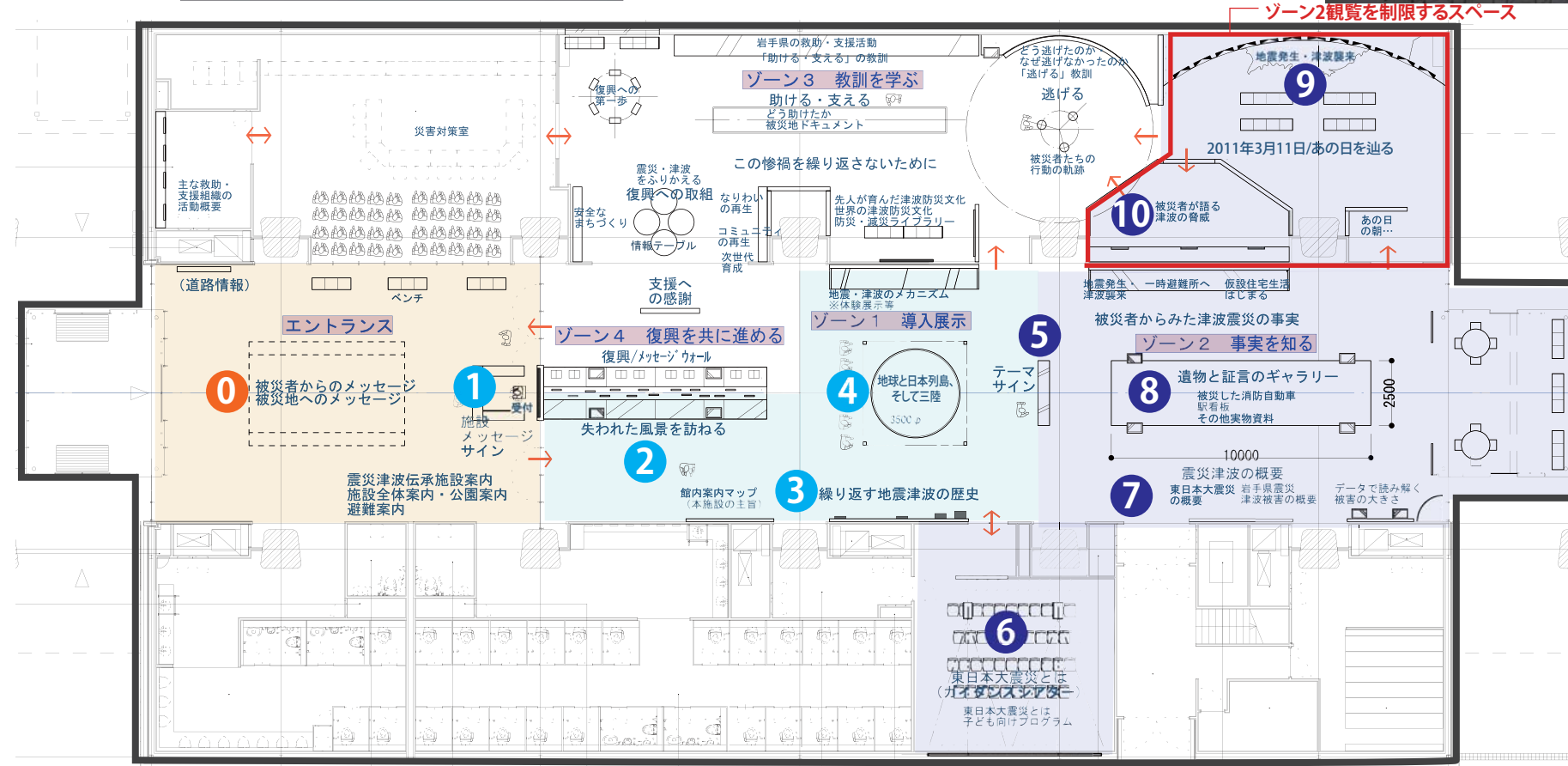
【ゾーン2 6】東日本大震災津波とは (ガイダンスシアター)

東日本大震災津波の経緯、発生メカニズム、被害の全体像など、この震災がどのような災害であったのかを伝えるとともに、この施設の展示全体を通じて何を学び、考えてほしいのかを問いかけることをねらいとする。



【ゾーン2 10】2011年3月11日/あの日を辿る -被災者が語る津波の脅威-

被災者一人ひとりの体験、その場に遭遇したからこそ語れる言葉から、津波の恐ろしさ、津波被害の甚大さ、命の大切さ、悲しみや苦しみを臨場感をもって浮かび上がらせることをねらう。被災者の証言を発信する展示を目指す。



【ゾーン2 5】テーマサイン

2011年3月11日、大震災に襲われたその時を感じられるよう、大震災発生によって止まった時計(実物)を象徴的に展示する。



【エントランス 0】被災者からのメッセージ・被災地へのメッセージ

震災津波伝承施設のエントランス(顔)として、当施設を訪れた人々だけでなく、入館を目的としない人々にも、当施設がどのような施設であるのか、その趣旨を感じ取ってもらうことを目的とする。



【ゾーン1 1】施設メッセージ

展示の導入部として、展示を貫く趣旨をシンボリックに伝える。そして、被災地の人々をはじめ、日本人は地震・津波など過酷な自然災害を宿命としながら懸命に生を重ねてきたこと、その姿を伝える。



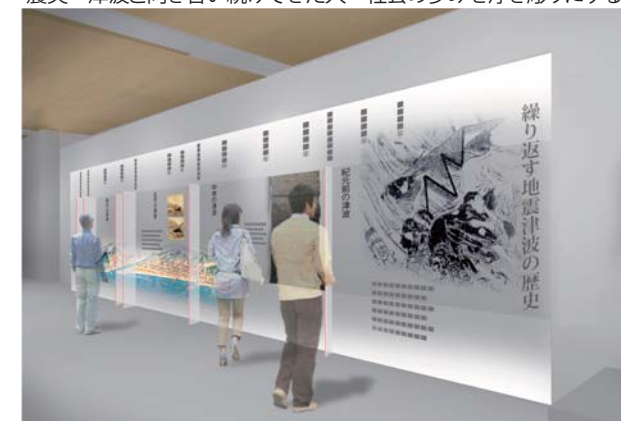
【ゾーン1 2】失われた風景を訪ねる

震災前の津波で失われた風景と、そこにあった人々の営みや文化を伝え、海とともにある三陸の暮らしを伝えることをねらう。



【ゾーン1 3】繰り返す地震津波の歴史

繰り返す襲来した津波の事実と日本人がそれにどう立ち向かい乗り越えてきたかを辿る。三陸地域を中心に全国にも視野を広げながら、震災・津波と向き合い続けてきた人・社会の歩みを浮き彫りにする。



【ゾーン1 4】地球と日本列島、そして三陸

地球の営みははかり知れず、想定を超える災害リスクを常に孕んでいること、中でも日本列島及び三陸地域は、そうしたリスクが特に高い地域であることへの気づきに導く。



【ゾーン3 13 助ける・支える】 - 災害対策室 -

救助・救援活動の指揮拠点となった災害対策室を移設。映像等を使って、被災地を救うために人々がどう立ち向かったのか、そのリアルな物語に人々を誘う。現場力、組織力、指揮力の重要性を感じてもらうとともに、そこから培った教訓を発信。また、この環境を活かして、多様なプログラムを展開する場としても機能させる。



【ゾーン3 12 助ける・支える】 - どう助けたのか被災地ドキュメント / 岩手県での救助・支援活動 / 「助ける・支える」教訓 -

被災時には、多様な主体によって人命救助、物資の供給、瓦礫の撤去、道路啓開、リエゾン・テックフォース、後方支援などが展開され、未曾有の困難に驚くべき速さで立ち向かっていった。誰がどのように動いたのか、主要な動きを時間軸で追いつながり、救助・支援活動の全体像・流れを俯瞰してもらうとともに、そこから見える教訓を浮き彫りにする。そして、なぜ、それができたのかについても考える。



【ゾーン3 11 逃げる】 - どう逃げたのかなぜ逃げなかったのか / 「逃げる」教訓

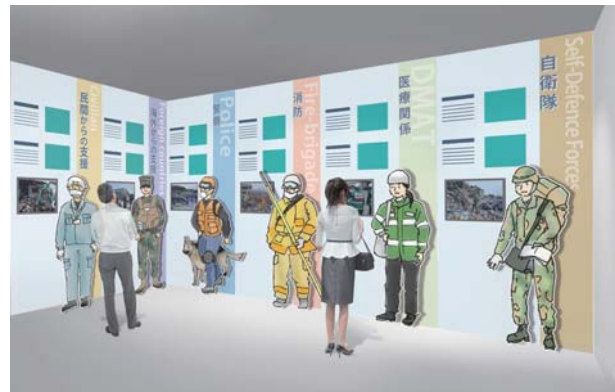
「逃げる」ことへの意識と行動がいかに人の運命を左右するのかを考える。避難行動の軌跡や証言等をベースに、「避難行動」の事実、そこから見える教訓を伝える。また、津波襲来を食い止めた遅くする防潮堤、浸水で通行止めにならない道路等の「避難」を支えるインフラが、命を守るうえで重要な役割を果たしていることについても伝える。



【ゾーン3 14 助ける・支える】

- 主な救助・支援組織の活動 -

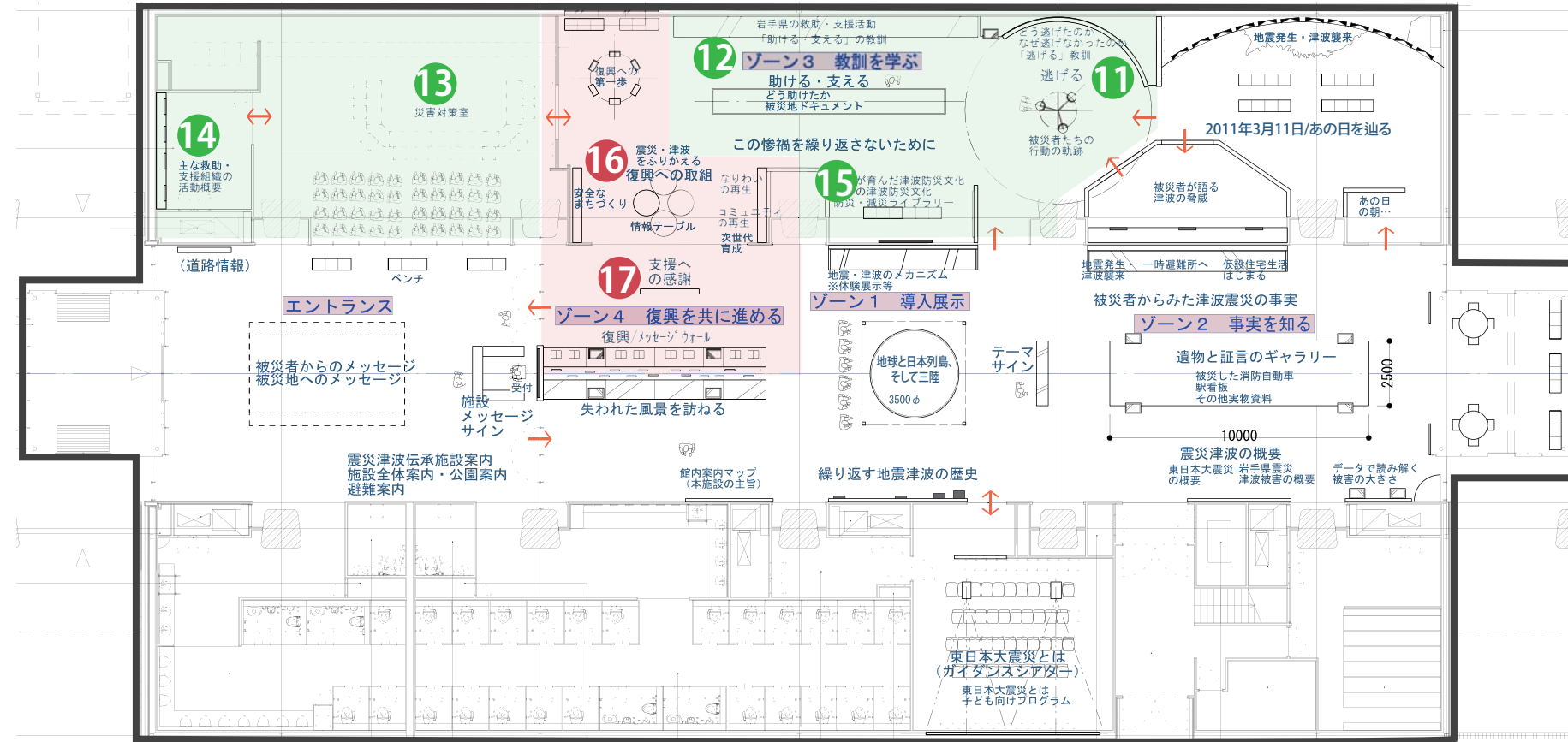
今次災害救助・支援活動に大きな役割を果たした自衛隊、消防、警察、また医療関係や海外からの支援など、活動の主体者別に救助・救援・支援活動をまとめて示すことで、それぞれの活動内容や重要性について知り、理解を深められるものとする。



【ゾーン3 15

- 先人が育んだ防災文化 / 世界の防災文化 / この惨禍を繰り返さないために -

この惨禍を繰り返さないための、防災文化を考える場。先人が育んだ国内外の防災文化を紹介するとともに、「世界津波の日」、アチェやハワイの津波防災学習施設の活動など、新たな動きについて伝える。また、研究者や被災時にコミュニティを引っ張った地域リーダーなど、多様な人々にこの度の震災津波をふりかえってもらい、惨禍を繰り返さないためのヒントを探る。



【ゾーン4 16 復興への取組】

-安全なまちづくり / なりわい再生 / コミュニティの再生 / 次世代育成 / 情報テーブル
被災地で進んでいるインフラの整備、防災教育の推進など、次の津波に負けないための安全なまちづくりを発信。なりわいやコミュニティの再生、次世代育成など、地域再生・復興に取り組む人々の姿を生きたく伝えることを目指す。



【ゾーン4 17 復興への取組】 - 復興メッセージ / 支援への感謝 -

被災地の人々の復興に取り組んでいる姿、頑張っている姿を発信するとともに、国内外からの厚い支援に対する感謝の気持ちを伝える。そして、この経験とそこから培われた知恵を世界に発信していくことについて、国内外の来訪者に理解と共感を促す



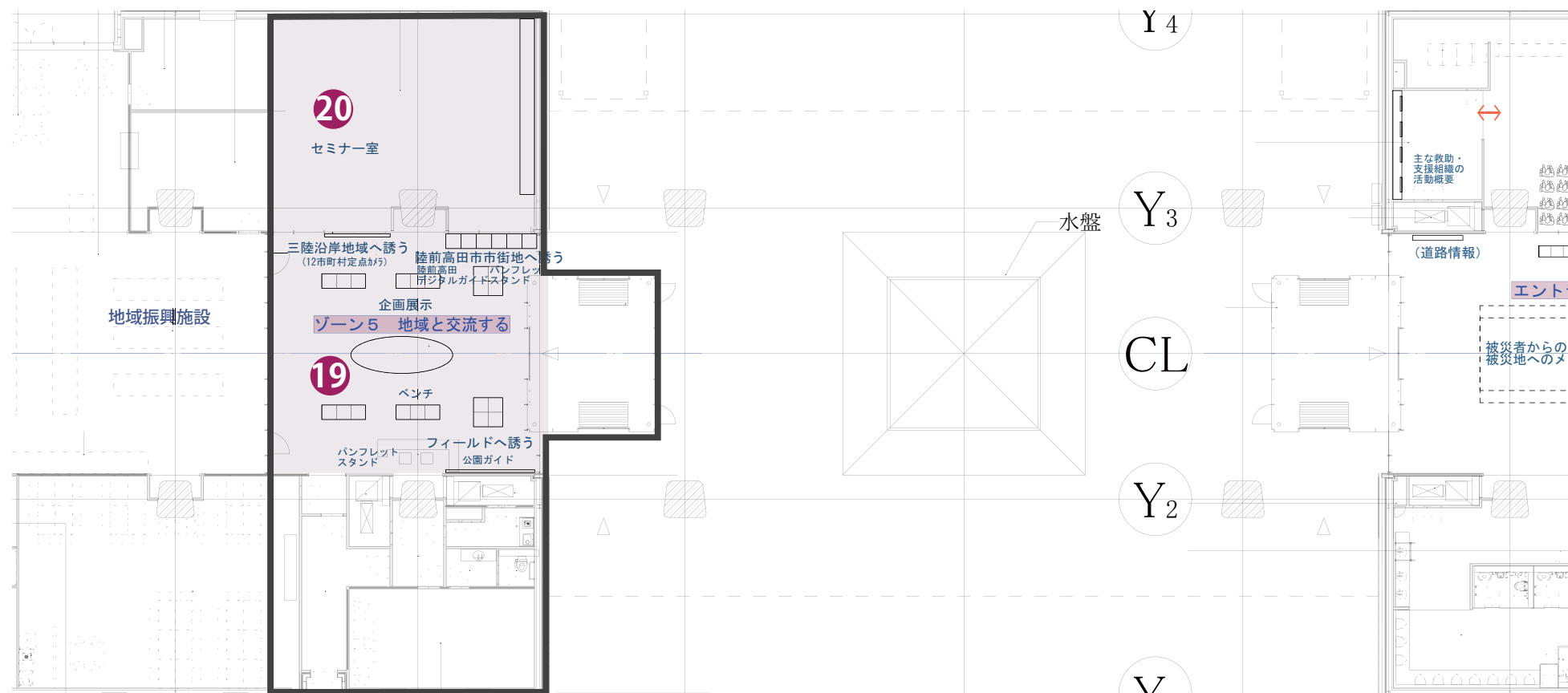
【ゾーン5 19 地域と交流する】 - フィールドへ誘う / 陸前高田市市街地へ誘う / 三陸沿岸地域へ誘う -

来館者を公園内のフィールド案内、陸前高田市市街地への案内、さらに三陸沿岸地域へと誘う情報提供を行う場。復興に向けて日々進展する三陸沿岸地域の息づかいを伝える場でもある。休憩スペースとしても利用できるようイス等も用意する。また、交流促進の場としても位置づけ、通路空間を活用して各地の復興の様子を伝えるミニ企画展なども開催できるようにする。



【ゾーン5 20 地域と交流する】 - セミナー室 -

セミナー室として、ワークショップや講座、研修会等に活用することを目的とする。校外学習の子どもたち向けの「被災者の話を聞く会」や「紙芝居の会」など、団体利用のスペースとしても活用。休憩室、団体用の昼食スペースとしても活用する。また、図書コーナー、いわて震災津波アーカイブ検索装置を設置する。



■ 事業計画の基本的な考え方

事業計画の基本は、本施設の使命を効果的に果たすこと

基本計画においては、本施設の使命として「多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へと伝承」、「世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩いていく姿を発信」の二つが掲げられています。事業計画の基本は、これら二つの使命を効果的に果たすことです。

[本施設の使命]

- 多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承
- 世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩いていく姿を発信

■ 想定される事業イメージ

本施設の事業の柱を、「展示事業」と「教育・普及事業」の二つとし、この二つの事業を充実・発展させるために、三つの連携活動を推進するものとします

事業1 展示事業

- 三陸沿岸被災地の復興に向けての歩みとともに進化・成長する展示の実現
- 常設展示では実現しにくい展開や、最新のテーマをとりあげるなど、常設展示を補完する企画展示の実施

常設展示の更新

復興の進展や新たな研究成果などを反映させるなど、必要に応じて随時常設展示を更新します。

- ・三陸沿岸被災地の復興の歩みを反映
- ・震災津波、防災・減災の新たな研究成果を反映
- ・新たな資料発掘にともなう展示更新、等

企画展示の開催

特定テーマを深く掘り下げたり、時宜に即したテーマを取り上げるなど、随時、新しい話題を提供する企画展示を実施します。

- ・常設展示のテーマを広げたり深めたりする展示
- ・時宜に即した新しいテーマの展示
- ・常設展示では実現しにくい展開手法の展示、等

事業2 教育・普及事業

- 国内外の子どもから専門家まで、幅広い層の利用を前提に、多様なニーズに対応する学習プログラムを整備。
- フィールドや展示、語り部等の人材など、本施設が有する多様な要素を活かして、ここだけの質の高い教育普及プログラムを構築。

各種学習プログラムの整備・実施

多様なニーズを想定し、各種学習プログラムの整備・実施を検討します。

- ・展示ガイド
- ・震災遺構を巡るフィールドツアー
- ・語り部活動
- ・ワークショップ、研修会
- ・防災訓練プログラム
- ・防災・減災リーダー研修
- ・企業研修、等

語り部・ボランティアの教育・人材育成

教育普及活動の質を向上させるため、その担い手となる語り部やボランティアの教育・研修を実施します。

- ・語り部・ボランティアのための研修プログラム
- ・類似の施設や活動の視察研修、等

大型イベントの企画・実施

シンポジウムや復興支援イベントなど、大型のイベントを実施、あるいは誘致することを検討します。

- ・シンポジウムや講演会等の企画
- ・実施
- ・各種復興支援イベント、等

各種教材の開発

震災・津波伝承・防災・減災学習に係るガイドブックやDVD教材など、各種教材を開発することを検討します。

- ・震災津波伝承、防災・減災学習に係るガイドブックやDVD教材の開発
- ・写真集や証言集の編纂、等

上記二つの事業を充実・発展させるために、三つの連携活動を推進

大学や類似施設等関連研究機関と連携

事業に関連機関の調査・研究資源を取り込みます

- 震災津波、防災・減災等に係る先端的な調査・研究成果を教育・普及事業や展示に活用できるようにするとともに、研修・講座等の教育活動において研究者・専門家の支援を得られるよう、県内外の関連研究機関、国内外の代表的津波防災学習施設等との連携を推進します。
- 関連する研究機関、市民組織、企業等との共同調査・研究を実施します。

<想定される連携機関>

- ・岩手大学地域防災研究センター・東北大学災害科学国際研究所・人と未来防災センター
- ・稲むらの火の館・宮城県の復興祈念公園・福島県の復興祈念公園 等

三陸被災地をはじめとした県内各地域と連携

震災津波伝承の活動ネットワークを育てます

- 震災津波伝承活動を広げ、活性化するために、三陸沿岸市町村をはじめとした県内各地とのネットワークを構築し、一体感を育みます。
- 三陸沿岸市町村をはじめ、県内各地域との連携・協働事業を推進します。

アーカイブ事業と連携

アーカイブを事業活動に最大限活かします

- 県の震災津波アーカイブ事業と密に連携し、この事業を通じて蓄積されるアーカイブ資料を教育・普及事業、展示事業に最大限活かします。